

日本教師教育学会 第32回研究大会

大会テーマ

教員養成・研修の標準化と多様性、そして主体性

大会プログラム



会期：2022年9月16日（金）～18日（日）

オンライン開催 大会準備校 秋田大学

主催：日本教師教育学会

共催：秋田大学教育文化学部

後援：秋田県教育委員会、秋田市教育委員会

日本教師教育学会第 32 回研究大会実行委員長より（ご挨拶）

大会実行委員長 佐藤 修司

日本教師教育学会第 32 回研究大会は、秋田大学が担当し、2022 年 9 月 16 日（金）～18 日（日）にオンラインで開催されます。新型コロナの感染拡大に伴い、第 30 回、第 31 回と、オンラインによる開催となり、第 32 回こそは、秋田の地で対面にて開催することをぎりぎりまで追求していました。しかし、4 月になっても感染状況が改善したとは言えず、逆にこれまで感染の少なかった地方で感染が拡大し、また、会場となる秋田大学の教室利用等の制限が厳しいままであることなどを勘案して、オンライン開催とすることになりました。秋田の自然、文化、食、酒、温泉などに触れていただきたかったのですが、残念至極です。夏の竿灯まつりなど、規模を縮小するなどして実施される予定ですので、機会を見て秋田を訪れていただけると幸いです。

秋田は、いわゆる全国学力テストで、小中学生の高い学力が注目される県ではありますが、戦前の北方教育の伝統や、1970 年以降の生涯教育、1993 年頃からのふるさと教育への先進的取り組みなども忘れてはならない事績です。せっかくの秋田大会ですので、秋田における探究型授業、そして、教員養成、教員研修など、教師の学びがどのように展開されているのかについて、公開シンポジウムなどを通じて感じ取っていただけるようにしたいと考えています。

教員免許更新制の廃止に向けて教育職員免許法や教育公務員特例法などが改正され、更新制に代わる新たな研修履歴管理システムが導入されるなど、今大会は教師教育にとって大きな節目となる時期に開催されます。新学習指導要領における主体的対話的な深い学びや、昨今の個別最適な学びと協働的な学び、そして、コロナ禍で一挙に進行した G I G A スクール構想の中で、教師の学びのあり方も大きな変容が迫られています。このようなことから、大会テーマを「教員養成・研修の標準化と多様性、そして主体性」として、開催することといたしました。

コロナ禍で教育ばかりでなく、研究も様々な制約が課される中ですが、オンラインであることを逆手にとって、全国から多くの方に参加いただき、これからの教師教育を切り拓く機会となることを願っております。

大会プログラム 目次

大会テーマ	3
日本教師教育学会第 32 回研究大会要領	4
秋田大学教育文化学部附属小学校公開研究協議会授業録画配信	8
ラウンドテーブルⅠ	9
ラウンドテーブルⅡ	10
若手研究者育成支援部	11
自由研究発表	12
第 1 分科会	13
第 2 分科会	14
第 3 分科会	15
第 4 分科会	16
第 5 分科会	17
第 6 分科会	18
第 7 分科会	19
第 8 分科会	20
第 9 分科会	21
第 10 分科会	22
ポスター発表	23
定期総会	25
シンポジウム	26
自由研究発表	30
第 11 分科会	31
第 12 分科会	32
第 13 分科会	33
第 14 分科会	34
第 15 分科会	35
第 16 分科会	36
第 17 分科会	37
第 18 分科会	38
第 19 分科会	39
第 20 分科会	40
課題研究Ⅰ	41
課題研究Ⅱ	43
課題研究Ⅲ	44
協賛広告	45

大会テーマ 教員養成・研修の標準化と多様性、そして主体性

2021年1月、中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」が出され、続いて、2021年11月に、『令和の日本型学校教育』を担う教師の在り方特別部会」から、審議まとめ『令和の日本型学校教育』を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて」が出された。

現行学習指導要領にある「主体的で対話的な深い学び」、そして個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のためには、それに対応できる教師の資質能力の確保が不可欠だということであろう。Society5.0の社会を目指す取り組みは、新型コロナの感染拡大により突発的に加速され、GIGAスクール、ICT活用、オンライン・遠隔教育などの課題が教師には課せられることになった。

審議まとめは、新しい学びの姿の高度化を支える三つの仕組みとして、①学習コンテンツの質保証、②ワンストップ的に情報を集約し、適切に整理・提供するプラットフォーム、③学びの成果を可視化するための証明の仕組み、を提起し、さらに研修受講履歴管理システムの導入と、教職員支援機構の積極的な役割を提案している。

教員免許更新制は廃止の方向が決まったものの、10年研導入当時から現在まで続いていた批判は触れられないまま、更新制の発展的な解消と、「新たな教師の学びの姿」の実現により教師の専門職性の高度化を進めるとされている。教師の多忙化、人気の低下、教師不足の社会問題化が背景にあることは明らかなが、その解決の道筋が示されているとは言えない。

この30年ほどの間に、教員免許に関わっては、専修免許状（一種・二種）の創設、免許更新制・更新講習（の創設と廃止）など、教員養成に関わっては、教育学研究科・教職大学院の全国的整備、教職実践演習、教職課程コアカリキュラム、教職課程の自己点検評価など、教員研修に関わっては、初任者研修、10年経験者研修（中堅教諭等研修）、指導改善研修など、全体に関わっては、教員育成指標、教員育成協議会などなど、多くの制度改編がなされ、養成・採用・研修の一体化、体系化が進められてきた。

「学び続ける教員像」や、教師の継続的な学びを支える主体的な姿勢など、教師の学びの主体性、能動性が強調されるものの、具体では「育成」や「受講」、「管理」などのように、客体性、受動性が色濃く感じられる。戦後教育改革で教特法に盛り込まれた「研究と修養」、教員身分法要綱案にあった「研究及び教育の自由」の精神が後退し、教師の自主研修、民間教育研究団体、組合教研などでの学びが細り、多様性が失われていくこと、行政研修が張り巡らされ、校内研修（研究）が形骸化していくこと、また今後、民間教育事業者や教職員支援機構のオンライン教材等への依存と標準化が進行することも危惧される。教員養成も例外ではない。

本大会では、中教審での議論の状況を踏まえながら、養成、採用、研修の全体を通じた今後の教師の学びのあり方を考える機会としたい。

日本教師教育学会第 32 回研究大会要領

1. 大会テーマ

「教員養成・研修の標準化と多様性、そして主体性」

2. 会期

2022年9月16日（金）、17日（土）、18日（日）

3. 会場

オンライン開催（大会準備校 秋田大学）

4. 日程

1 日目 9 月 16 日 金曜			13:00～15:00	16:00～18:00	19:00～
			*附属小学校参観	ラウンドテーブル 若手研究者育成支援部	理事会
2 日目 9 月 17 日 土曜	9:30～12:00	昼食	13:00～14:15	14:30～17:30	17:45～18:45
	自由研究発表 *ポスター発表		総会	公開シンポジウム	情報交換会
3 日目 9 月 18 日 日曜	9:30～12:00	昼食	13:00～16:00		
	自由研究発表		課題研究(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)		

○本大会は、Zoom(<https://zoom.us/>)による LIVE 配信を基本とします。

○附属小学校参観は 6 月開催の公開研究協議会の録画を配信します。

○ポスター発表は、9 月 12 日（月）12:00～9 月 30 日（金）12:00 の間、発表者が作成した資料（A4 で 2 枚以内）及び動画（mp4 形式、10 分以内）を配信します。発表者は資料及び動画を 9 月 5 日（月）12:00 までに提出します。提出方法は、申込後メールで案内します（メールで Google ドライブのリンクを案内し、申込み者専用の共有フォルダへ入れてもらう）。発表者は 9 月 5 日（月）12:00 までにサイト上で資料及び動画を提出します。参加者からの質問・意見等はサイト上で 9 月 17 日 12:00 まで受け付け、発表者は回答等をサイト上で 9 月 18 日 12:00 までに提出し、その回答は 9 月 30 日 12:00 まで閲覧可能とします。

○課題研究ⅠⅡⅢ及び公開シンポジウムは録画を 9 月 19 日以降、9 月 30 日 12:00 までオンデマンドで配信予定です。

○情報交換会は、SpatialChat で行います。どうぞご予定下さい。

○編集委員会、研究倫理関係は前週に Zoom 等により実施予定です。

5. 大会参加方法、参加費

■ 学会員の皆様の参加について：学会費全納が条件・事前申込不要・参加費無料

学会費を全納した学会員は、すべてのプログラムに無料で参加できます。参加者専用サイトに入るための情報は、9月12日より「会員情報管理システム」内に表示されます。

■ 学会員以外の皆様の参加について：事前申込必要・参加費 2000 円

8月末日までに、日本教師教育学会第32回大会サイト (<https://32nd.jsste.jp/>) から事前参加申し込みを行い、参加費を振り込んで下さい。総会以外のすべてのプログラムに参加できます。参加者専用サイトに入るための情報は、9月12日以降メールでお伝えします。

■ 公開シンポジウムのみ参加希望の学会員以外の皆様へ：事前申込必要・参加費無料

学会員以外で、公開シンポジウムのみ参加を希望する方は、8月末日までに、日本教師教育学会第32回大会サイト (<https://32nd.jsste.jp/>) から事前参加申し込みを行ってください。参加に必要な情報は、9月12日以降メールでお伝えします。

6. 自由研究発表について

- 自由研究発表の口頭発表者が1名の場合は30分（発表20分、質疑10分）、口頭発表者が複数の共同発表は50分（発表35分、質疑15分）です。
- 発表取消があった場合は、以降の発表を繰り上げることはせず、その時間を質疑または休憩の時間に充てることにします。
- 発表者と司会者は、分科会の開始前に発表会場（Zoomの割り当てルーム）に入室し、技術的な設定や簡単な打ち合わせを行ってください。
- 遠隔配信につき、予鈴を鳴らすことはいたしません。それぞれ時間に注意しながら発表を行ってください。
- 当日の報告時間には、司会の指示に従いつつ、「画面の共有」等の操作を進めてください。

7. 発表に係る機材について

- 発表に必要なインターネット環境、マイクとカメラ（PC内蔵のものを含む）は各自でご準備ください。またあらかじめZoomアプリをダウンロードしておいてください。
- 分科会開始前に、必ず各自で接続のチェックや音量の調整等、必要な準備をお進めください。（9月3日にカメラ・マイクチェックのためのリハーサルを予定しています）
- 基本的にマイクはミュートの設定にしておき、報告時のみミュートを解除してください。ご自身のカメラ画像を表示するかしないかは任意です。

8. 発表資料について

- 資料につきましては、事前に所定の期日までにお送りいただき、大会Webサイトの参加者専用サイトにリンクを貼り、ダウンロードできるようにさせていただきます。提出

期日以降は、ご発表時に各自でお配りいただきます。詳細は発表要領をご確認ください。

9. 分科会等会場

- 遠隔配信での口頭発表は、20 分科会を設定しております。参加される発表会場（Zoom ミーティング ID）をご確認のうえ、それぞれご入室ください。
- 分科会で使用する Zoom ミーティング ID／パスワードの設定は学会事務局が行いますので、発表者が個人で Zoom アカウントを取得し、ミーティングを設定する必要はありません。

ぜひHPからだけでも秋田大学教育文化学部の様子をご覧ください。

秋田大学 <https://www.akita-u.ac.jp/honbu/index.html>

秋田大学教育文化学部・教育学研究科 <https://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/>



シンポジウム等を予定していた教育文化学部 3 号館ホール

9月16日（金）大会第1日

秋田大学教育文化学部附属小学校公開研究協議会録画配信

ラウンドテーブル

若手研究者育成支援部

理事会

※Zoom（リアルタイム配信）



冬の秋田大学手形キャンパス

秋田大学教育文化学部附属小学校公開研究協議会授業録画配信 9月16日（金） 13:00～15:00（9月12日から9月30日まで視聴可能）
--

秋田大学教育文化学部附属小学校では、基本的に3年クールで実践研究を推進しています。昨年までの研究主題は「自律した学習者を育てる」で、副題を「学びをつなぎ資質・能力を高める」としておりました。この研究の成果と課題を受けて、今年度から新しい研究をスタートしました。研究主題は、「自律した学習者を育てるⅡ」で、研究副題は「子どもと教師でつくる『学びのものさし』」です。特に副題では、“自律”に着眼した継続的な研究を受けて、この3年間で取り組む研究の特色を示しています。子どもの自律的学びのために“子どもと教師”で協働的に構築する“ものさし”の提言です。本校の研究履歴では自律に着眼した研究を進めてまいりましたが、自律した学びのためには学習者自身による学びの“省察”というメタ思考・メタ認知が大切である、そしてその省察を深めるためには何らかの“ものさし”が必要であろうという仮説です。各教科、各学年において、この「学びのものさし」がどのように構築されるのか、そして活用される“ものさし”とはそもそもどのようなものなのか、そして実際にそれが子どもの自律的学びにどのように作用するのか等の問題提起になります。

本年6月10日に開催した公開研究協議会において公開した授業録画を配信いたします。公開研究協議会では通常、全体会（研究説明）の後、対面で参加者に授業を見学してもらい、研究協議を行って、その後、講演会を実施しています。コロナ禍であることから、昨年、今年とオンライン開催となっています。今年度は事前に授業録画を見てもらい、当日はZoomで、全体会、研究協議、講演会を実施しました。

教科等	単元・題材名	授業者
1年図画工作	ぐう、ちょき、ぱあで、おりがみへーんしん	佐々木 恵
2年生活	とびだせ、ふぞくタウン！キラキラたんけんたい	稲垣 勇介
2年国語	つたわるように書こう ～わたしのやさい 今日のはっけん～	進藤 由貴子
3年社会	しらべてくらべよう、わたしたちの秋田市	石田 智之
4年算数	わり算名人になろうⅡ～2けたの数のわり算～	猿田 千穂子
4年理科	雨水はどこへ～雨水の行方と地面の様子～	柴田 省吾
5年体育	マット運動 ～クルッと回って、クルクルつないで、gymnast～	佐藤秀恒
5年家庭	めざせ！快適 LIFE ～着方を工夫して快適に過ごそう～	佐々木 絵理子
5年道徳	友情を支えるもの「友の命」	小室 真紀
6年音楽	曲の感じを生かして、豊かに表現しよう ～ぼくらの日々～	大山 光子

※附属小学校HP（<http://www.aes.akita-u.ac.jp/>）もご覧ください。

教師教育に携わる大学教員の実践と「省察」概念
—「省察」概念は実践に何をもたらしているか—

◆ 企画者・登壇者

企画代表者：山崎 準二（学習院大学）

○長谷川 哲也（岐阜大学）

○高谷 哲也（鹿児島大学）

○田中 里佳（上野学園大学）

○山内 絵美理（東海大学）

○高野 貴大（茨城大学）

◆ 概要

教師教育に携わる大学教員の実践において、「省察」概念がどのように受けとめられ、いかなる形で実践化されており、何が課題として認識されているか、個々の大学教員が経験している事例を通して確認していくことで、「省察」概念が教師教育の実践に何をもたらしているかについて考える。

具体的には、大学のなかでも教員養成の高度化として「理論と実践の往還」を推進する手段として「省察」概念が受容されていった教職大学院を中心に、その政策的な経緯についての確認を行ったうえで、その教育に携わる立場にある大学教員が、「省察」概念とどのように出会い、受けとめ、自身の教育実践との関係を具体化しているか、そしてどのような課題を認識しているかを把握する調査を実施してきた途中経過を報告する。また、国外の教師教育における「省察」概念の受容事例についても確認することを通して、「省察」概念が日本の教師教育実践には何をもたらしているといえるのか、そこに教師教育としてのどんな意味や課題が見出されるのかについて、参加者の実践経験も交流しながら、迫っていきたい。

教師養成と子ども文化⑦

そして遊べる教師はいなくなった。遊べない教師たち
—言葉遊びと運動遊びについて考える—

◆ 企画者・登壇者

企画代表者：○田中 卓也（育英大学）

○時田 詠子（群馬医療福祉大学）

○中塚 健一（小田原短期大学）

○香曾我部 琢（宮城教育大学）

○中島 眞吾（中部大学）

○西田 明史（中村学園大学）

○塚越 亜希子（群馬医療福祉大学）

◆ 概要

2016年度より本ラウンドテーブルにおいて上記のメインタイトルにて継続発表を行い、このたび第7弾となる。今まで、遊びができない子どもへの教師の関り、コロナ禍での遊び、遊びと学びの境界線等について発表してきた。今回は「言葉遊び」「運動遊び」に視点を置く。発表内容は「わらべうたに合わせた言葉遊び・運動遊びがもたらす乳幼児期の育ち」、「英語の絵本を使った言葉遊びや身体を使った遊び」、「園庭の環境が生み出す子どもの動きと遊び」「子どもの遊びの連続性」、「児童の生活や遊びの中での言葉遊び」「小学校授業実践における児童が好きな言葉遊びと運動遊び」「放課後児童デイサービスに通う小学生の言葉の獲得と運動遊び」である。登壇者は幼・小・中・高校現場経験者、幼児教育や初等教育・英語教育研究者等である。上述の発表内容の対象期は、乳幼児期、児童期と分かれる。子どもには両期の段差への「架け橋」が必要である。そのあたりの議論も含めて会員の多くの先生方と交流を図り、様々な視座からご意見をいただきたい。

論文作成支援セミナー

若手研究者育成支援部企画として、本学会年報への投稿を目指している会員の皆様を対象とする「論文作成支援セミナー」を開催します。第1回（8月7日オンライン開催）と同様、2名の採択経験者に話題提供をお願いしています。論文作成時のご苦勞や査読後のリライトで留意されたこと等のご経験をお話し頂きます。また年報編集委員経験者からもコメントを頂きます。会員であればどなたでも参加できます。ふるってご参加ください。

【話題提供者】

①奥田 修史（筑波大学大学院）

→第30号（2021）「1920年代のアメリカにおける幼小接続期に焦点化した初等教育
教員養成改革」

②芦田 祐佳（大阪教育大学）

→第26号（2017）「情動的支援における教師の実践的思考—低学年児童がネガティブ
情動を表出する場面の違いに着目して—」

【コメンテーター】

岩田 康之（東京学芸大学）

【進行（予定）】

- ①挨拶＋主旨説明：5分
- ②話題提供：40分（20分×2名）
- ③話題提供を受けての小グループでの交流：40分
- ④全体協議・質疑：20分
- ⑤編集委員経験者よりコメント：15分
- ⑥閉会挨拶

9月17日（土）大会第2日

自由研究発表

ポスター発表

定期総会（学会員のみ）

公開シンポジウム

情報交換会

※Zoom（リアルタイム配信）



竿灯祭りでの附属特別支援学校の子どもたちの活躍

第1分科会 9月17日(土) 9:30~11:50

司会：金子 真理子（東京学芸大学）

山崎 奈々絵（聖徳大学）

9：30～10：00

現代日本の幼児教育における保育者の専門職性に関する研究

○石崎（吉田）ちひろ（常磐短期大学）

10：00～10：30

対話型校内研修による教員同士の親密性の向上に関する実証的研究

○出井 伸宏（名古屋大学大学院・
名古屋市長八熊小学校）

10：30～11：20

教員のチーム・チームワークに関する概念の整理と再定義

○中井 悠加（島根県立大学）

○米沢 崇（広島大学）

11：20～11：50

全体討議

第2分科会 9月17日(土) 9:30～11:30

司会：太田 拓紀（滋賀大学）
紅林 伸幸（常葉大学）

9：30～10：00

大阪青年師範学校の浪速大学への包括・廃止過程に関する研究
○小田 義隆（近畿大学）

10：00～10：30

間違いを通して教室で分かち合う文化的スクリプト
○山本 佐江（帝京平成大学）

10：30～11：00

授業研究における倫理のまなざし
○津久井 純（麻布教育研究所）

11：00～11：30

全体討議

第3分科会 9月17日(土) 9:30~12:00

司会：川村 光（関西国際大学）

北田 佳子（埼玉大学）

9：30～10：00

「暴力を考える」教師によって現れる主体性

—G.ビースタの主体論を通じて—

○日向 悠太（立教大学大学院）

10：00～10：30

「学校と学習塾の連携」と「教職の専門性」の検討

○鈴木 繁聡（東京大学大学院）

10：30～11：00

データを手がかりとする子どもへの人間理解と評価

—何を頼りに子どもを理解しようとしているか—

○田上 哲（九州大学）

11：00～11：30

教職員間連携における対立と調整の背後にある規範

—スクールカウンセラーの介入をめぐるケース会議の会話分析—

○内田 千春（東洋大学）

齋藤 眞宏（旭川大学）

11：30～12：00

全体討議

第4分科会 9月17日(土) 9:30~12:00

司会：子安 潤（中部大学）
小柳 和喜雄（関西大学）

9：30～10：00

学生が捉える教育学の体系

－教員養成学部の学生が描く体系図に着目して－

○鶴田 百々（中村学園大学）

10：00～10：30

教職課程コアカリキュラムに対応した「教育課程論」の実践と効果（2）

－学習指導案作成と模擬授業発表におけるA Lの検証－

○新井 英志（天使大学）

10：30～11：00

大学生のICT活用指導力に関する調査結果を元にした「教育の方法と技術（教育方法論）」の授業構想

○藤原 靖浩（関西福祉科学大学）

11：00～11：30

探究型の授業実践に向けた教職準備性（2）

○羽野 ゆつ子（大阪成蹊大学）

11：30～12：00

全体討議

第5分科会 9月17日(土) 9:30~12:00

司会：田中 里佳（上野学園大学）

日暮 トモ子（日本大学）

9：30～10：00

教員免許状取得希望学生への支援を目的とした追跡調査の中間報告②

○藤平 敦（日本大学）

10：00～10：30

「国立大学」小学校教員養成カリキュラムにおける家庭科関連科目の現状
ーシラバス分析による実態把握とその類型化ー

○佐藤 ゆかり（上越教育大学）

10：30～11：00

音楽教員の養成カリキュラム改善に関する研究
ー器楽活動指導方法のアンケート調査を通してー

○薫 芳勝（創価大学）

11：00～11：30

エジプト日本型学校（EJS）における授業研究の初取り組み
ー学校の現状と教員養成への試みー

○Yasmine Mostafa（福井大学）

11：30～12：00

全体討議

第6分科会 9月17日(土) 9:30～11:30

司会：安藤 知子（上越教育大学）

別惣 淳治（兵庫教育大学）

9：30～10：00

データ利活用と Professional Learning Network の構築の試みが学校や教員に及ぼす影響

○小柳 和喜雄（関西大学）

10：00～10：30

学校現場の若手教師に伴走する大学教員のあり方をさぐるセルフスタディ
～クリティカル・フレンドを含む三者の同型的なかかわり合い～

○大村 龍太郎（東京大学芸大学）

10：30～11：00

日々の教育活動と研究活動により教師が獲得した社会科授業観

○大西 慎也（京都ノートルダム女子大学）

11：00～11：30

全体討議

第7分科会 9月17日(土) 9:30～11:30

司会：大島 宏（東海大学）
木原 俊行（大阪教育大学）

9：30～10：00

学びあう教員集団を育むための研修とは

－研修受講者を対象とした意識調査からの一考察－

○上山 那々（佛教大学大学院）
原 清治（佛教大学）

10：00～10：30

高等学校における若手教員の研究授業事後協議会の在り方

－強み発見ワーク・8つの問いの活用－

○山口 瞳（東京都教育庁）

10：30～11：00

授業分析の効果に関する研究

～初任教師による授業分析の比較から～

○木下 智実（所沢市立山口小学校
・早稲田大学大学院）

11：00～11：30

全体討議

第8分科会 9月17日(土) 9:30～11:30

司会：岡野 勉（新潟大学）
玉井 康之（北海道教育大学）

9：30～10：00

教師の職能成長とグローバルイゼーションに関する研究（1）
：在外教育施設をめぐる課題の検討

○岩田 康之（東京学芸大学）

10：00～10：30

地域と連携した教育課程の再編にみる「教師エージェンシー」の変容
－韓国における教師の主体的実践に注目して－

○金 聯珠（神戸大学大学院）

10：30～11：00

生徒指導の資質・能力向上はいかにして実現可能か
－指導観変容のプロセスに着目して－

○村上 慧（名古屋大学大学院・
暁星中学・高等学校）

11：00～11：30

全体討議

第9分科会 9月17日(土) 9:30~11:50

司会：柏木 智子（立命館大学）

佐々木 司（山口大学）

9：30～10：00

教師の授業研究会における学びの検討

ーインフォーマルな教師の学びに焦点をあててー

○長谷川 慶子

10：00～10：30

教員のマルチプル・インテリジェンスが教育活動に与える影響

ー特に探究学習についてー

○正司園 美音（京都教育大学大学院）

村上 忠幸（京都教育大学）

10：30～11：20

小規模学校における変革に向き合う教師の行為と認識

ーEcological Teacher Agency の観点からー

○望月 耕太（神奈川大学）

○櫻井 直輝（放送大学）

○木場 裕紀（東京電機大学）

梅澤 収（静岡大学）

11：20～11：50

全体討議

第10分科会 9月17日(土) 9:30~12:00

司会：佐藤 仁（福岡大学）
塩津 英樹（島根大学）

9：30～10：00

華文教師現職研修の特質に関する比較研究
ーシンガポールと日本を事例としてー

○白 璐（筑波大学大学院）

10：00～10：30

教師のための継続的専門性開発から共同実践性開発への研究動向

○荒巻 恵子（帝京大学大学院）

10：30～11：00

フィンランドにおける教員の養成ー採用-研修の今日的状況ー

○伏木 久始（信州大学）

11：00～11：30

イギリス Teaching School と教員養成における学校の役割機能に関する研究

○富田 福代（岐阜聖徳学園大学）

11：30～12：00

全体討議

< ① >

日本において「教師」の専門性はどう論じられてきたか
ー教師観の違いに着目してー

○藤村 祐子（滋賀大学）

○川口 広美（広島大学）

○朝倉 雅史（筑波大学）

< ② >

特別支援学校教員養成課程における知的障害教育指導法の授業展開のあり方
ー学生のリフレッシュシートやレポート課題の記述を踏まえた連続性・発展性のある授業構築の試みー

○南雲 敏秀（福井大学）

< ③ >

チーム担任制で求められる教師の資質能力
ー複数学年・複数担任制の導入を通してー

○西田 隆之（丹波市立中央小学校）

< ④ >

プレイパークの活用と子どもの遊びの保障
ー地域の子どもの遊びを通してー

○田中 卓也（育英大学）

○時田 詠子（群馬医療福祉大学）

○中塚 健一（小田原短期大学）

○香曾我部 琢（宮城教育大学）

○中島 眞吾（中部大学）

○西田 明史（中村学園大学）

○塚越 亜希子（群馬医療福祉大学）

< ⑤ >

規制緩和と教員養成の構造変容に関する研究

：大学・地方教育行政と教員養成の関係性を軸に

○岩田 康之（東京学芸大学）

○米沢 崇（広島大学）

○藤田（眞原） 里実（大阪経済大学）

早坂 めぐみ（高千穂大学）

山口 晶子（明治学院大学・非常勤）

大和 真希子（福井大学）

※ポスター発表は、9月12日（月）12:00～9月30日（金）12:00の間、発表者が作成した資料（A4で2枚以内）及び動画（mp4形式、10分以内）を配信します。

※参加者からの質問・意見等はサイト上で9月17日12:00まで受け付け、発表者は回答等をサイト上で9月18日12:00までに提出し、その回答は9月30日12:00まで閲覧可能とします。

定期総会 9月17日(土) 13:00~14:15

日本教師教育学会 第31回定期総会

日 時： 2022年9月17日(土) 13:00~14:15

議 事

1. 大会校からの挨拶(秋田大学)
2. 大会実行委員長挨拶
3. 日本教師教育学会会長挨拶
4. 議長団選出
5. 報告事項
 - (1) 一般会務
 - (2) 研究部
 - (3) 年報編集委員会
6. 審議事項
 - (1) 2021年度決算
 - (2) 2021年度決算 監査報告
 - (3) 2022年度予算
7. 次年度の研究大会について
8. 議長団退任

連絡事項

- * 総会参加資格：8月末日までに会費を完納している日本教師教育学会員です。
- * 手続き：該当会員にメールにて参加に必要な Zoom 情報を送ります。また、会員情報管理システムでもお伝えします。
- * お願い：学会事務局からのメール(office@jsste.jp)が届くようにしてください。
メールアドレスの追加・変更等がありましたら、会員情報管理システムからご自身で変更の上、学会事務局までお届け下さい。
- * 委任状：会員情報管理システムから送ることができます。なお、委任状提出者にも総会参加に必要な Zoom 情報はお送りいたします。

教師教育の現在を秋田の地から照射する ～教員養成・研修の標準化と多様性、そして主体性～

【趣 旨】

秋田は2007年度からスタートした全国学力・学習状況調査（いわゆる「全国学力テスト」）において、小中学生が全国トップクラスの学力を有していることが明らかになり、一躍注目を浴びることになった。教育学の世界では、戦前の北方教育が有名であったが、1960年代初めの全国学力テストでは秋田県は下位に位置しており、当初、高学力という結果は県内の者にとっても意外なものを受け止められた。その「躍進」の秘密を探るべく秋田を訪問する自治体も多くあり、秋田の教師と県外の教師を1年程度交換派遣し、秋田の実践を学ぼうという取り組みが今も行われている。

この秋田でどのような教員養成、及び教員研修が行われ、どのような資質能力が形成され、実践に結びついたのか。秋田県の小学校教員の6割、中学校教員の5割程度は秋田大学教育文化学部（1998年に教育学部から改組）の出身者が占め、現在も学部・教職大学院と秋田県教委や市町村教委との連携のもとに養成や研修が行われている。教師の授業力の高さ、学校の落ち着き、家庭学習への手厚いサポート、学校への地域の信頼などとともに、秋田の家庭環境や社会環境の良さも取り上げられるところである。しかし、急速な少子高齢化、人口減少、学校統廃合などは、秋田の教育に影を落としている。

一方、急激な教育状況、社会状況の変化を踏まえて、中央教育審議会において、「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿が検討されている。新学習指導要領の「主体的で対話的な深い学び」、「個別最適な学びと協働的な学び」の実現、そして、新型コロナウイルスの元で急加速された、Society5.0に向けたICT活用、対面とオンラインのハイブリッド、ビッグデータの活用など、子どもたちの学びだけでなく、教師の学びも変容が求められている。本シンポジウムでは、秋田の教育の成果と課題を踏まえながら、全国の状況、中教審での論議などを精査し、今後の教師の学びのあり方を検討する機会としたい。

【シンポジスト】

- 1) 貞広 斎子（千葉大学・会員外）
- 2) 阿部 昇（東京未来大学・元秋田大学）
- 3) 千々布 敏弥（国立教育政策研究所）

【指定討論者】

石井 英真（京都大学）

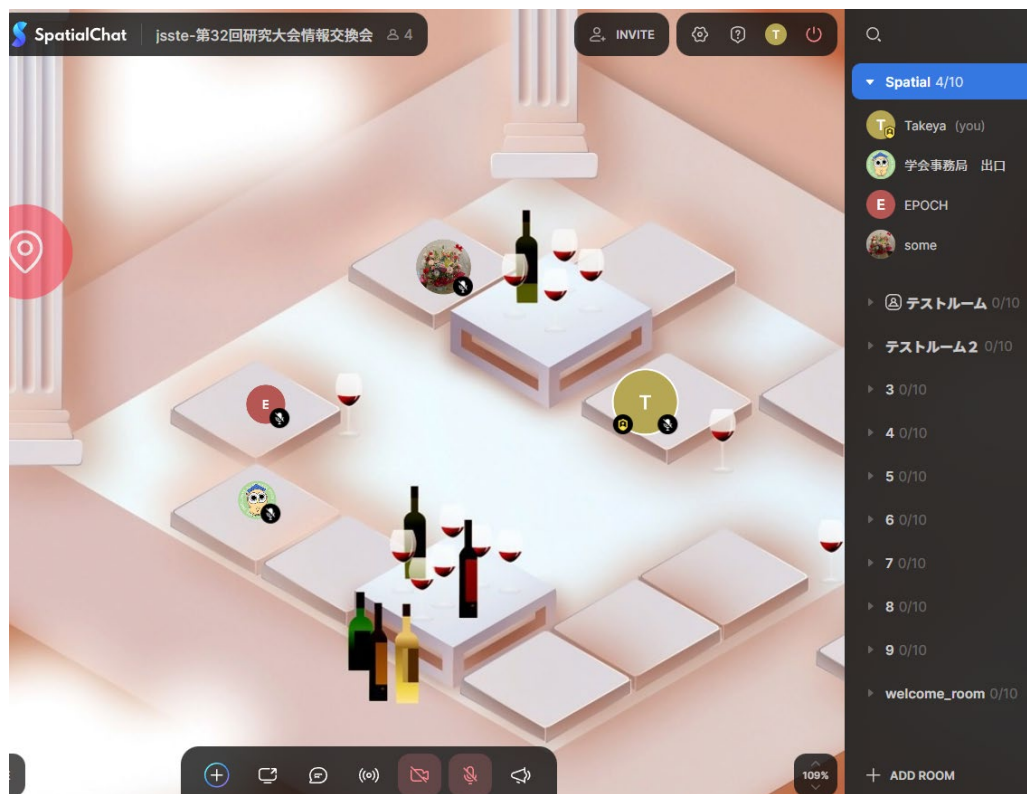
【コーディネーター】

福島 裕敏（弘前大学）

佐藤 修司（秋田大学）

情報交換会 9月17日(土) 18:00~19:00

○情報交換会は、SpatialChat（スペイシャルチャット、略して「スペチャ」）で行います。



【スペチャとは？】

会員登録などは不要です。参加者専用サイトの情報交換会 URL をクリックするだけで、簡単に参加できます。自分のアイコンを自由に動かすことができ、話したい相手の近くに移動させるとその相手の声が徐々に大きくなっていき、離すと徐々に小さくなります。同時に何人でも会話ができます。



詳しい使い方のマニュアルを準備しますので、ご活用ください。

○ぜひ通販などで秋田の酒や名産品を手元に置いて食しながらご参加ください。

秋田県物産振興会HP：<http://www.a-bussan.jp/>

ネット通販：楽天、YAHOO!ショッピング、amazon、郵便局のネットショップ
直営店

〔東京〕秋田ふるさと館（東京都千代田区有楽町 2-10-1 東京交通会館 1F）

営業時間：10 時～19 時、定休日：年末年始（12 月 31 日～1 月 3 日）

〔福岡〕みちのく夢プラザ（福岡県福岡市中央区天神 2-7-148 新天町商店街内）

営業時間：10 時 30 分～19 時、定休日：月曜・年末年始

○秋田県酒造協同組合のHPで秋田の酒蔵や食べ物、観光情報をご覧になれます。

秋田県酒造協同組合：

酒蔵・観光情報 県北篇 https://www.youtube.com/watch?v=7rFRSO_4hz4

酒蔵・観光情報 県央篇 <https://www.youtube.com/watch?v=g1SxiCwMtzw>

酒蔵・観光情報 県南篇 <https://www.youtube.com/watch?v=lp2pRZvNJvI>

○秋田県内市町村の観光プロモーションビデオを集めてみました。他にもありますので、探してみてください。

秋田市観光プロモーションビデオ

<https://www.youtube.com/watch?v=woeHpK0GyhY>

男鹿市観光プロモーションビデオ

<https://www.youtube.com/watch?v=mlZZELnrgpI>

横手市観光プロモーションビデオ

<https://www.youtube.com/watch?v=Kp3pj0RNpx4>

大仙市観光プロモーションビデオ

<https://www.youtube.com/watch?v=feQ98e1U6kw>

大館市観光プロモーションビデオ

<https://www.youtube.com/watch?v=JY0S80x5Lsc>

○秋田県内のお祭りを紹介した映像です。ぜひご覧ください。

竿灯祭り（秋田市）

<https://www.youtube.com/watch?v=woeHpK0GyhY>

花輪ばやし（鹿角市）

<https://www.youtube.com/watch?v=99kVo7mwt6c>

西馬音内盆踊り（羽後町）

<https://www.youtube.com/watch?v=-q60d2Qil3w>

なまはげ太鼓（男鹿海洋高校）

https://www.youtube.com/watch?v=jy_D01PdiZc

なまはげ柴灯（せど）まつり（男鹿市）

<https://www.youtube.com/watch?v=LN51uHkjMY>

かまくら祭り（横手市）

<https://www.youtube.com/watch?v=YtdcRLk8V60>

大日堂舞楽（鹿角市）

https://www.youtube.com/watch?v=jeT_bUyk7LE

角館火振りかまくら（仙北市）

https://www.youtube.com/watch?v=a-0_5TQhLtU

西木の紙風船上げ（仙北市）

<https://www.youtube.com/watch?v=T7WLuecbHEM>

大曲花火大会：大会提供花火（大仙市）

<https://www.youtube.com/watch?v=o3nn6Zs6i04>

9月18日（日）大会第3日

自由研究発表

課題研究Ⅰ

課題研究Ⅱ

課題研究Ⅲ



○△□のモニュメントは同窓会「旭水会」の100周年記念碑

第11分科会 9月18日(日) 9:30～12:00

司会：赤星 晋作（広島市立大学）
高谷 哲也（鹿児島大学）

9：30～10：00

校長のリーダーシップ育成上の課題
ーコロナ渦の校長へのインタビューからー

○井上 正英（愛知教育大学）
原 清治（佛教大学）

10：00～10：30

教職課程において教育理論を学ぶ意義について
ー近代教育思想を中心にー

○中塚 健一（小田原短期大学）

10：30～11：00

架け橋期のカリキュラム編成における課題とその解決策
ー小中学校段階間の連携・接続の視点から考えるー

○時田 詠子（群馬医療福祉大学）

11：00～11：30

アメリカにおけるコア・プラクティス運動の批判的検討
ー教師教育論における「コア」と「プラクティス」をめぐる問いー

○若松 大輔（弘前大学）

11：30～12：00

全体討議

第12分科会 9月18日(日) 9:30~12:00

司会：久保 富三夫（和歌山大学名誉教授）
船寄 俊雄（大阪信愛学院大学）

9：30～10：00

目標管理手法による教員評価制度の法改正前後の比較
－評価項目の改正と評価結果の人事的運用に着目して－

○頼 昇延（仙台大学）

10：00～10：30

群馬県におけるキリスト教の普及と女子教育実践
－教育者川合信水を中心に－

○田中 卓也（育英大学）

10：30～11：00

現代ベトナムにおける教員養成制度改革の特質に関する研究
：「教員資格」の導入を中心に

○関口 洋平（畿央大学）

11：00～11：30

琉球政府期沖縄における校内研修体制の確立と展開
－1960年代にみる体系整備の進展と分裂過程－

○松田 香南（名古屋大学大学院）

11：30～12:00

全体討議

第13分科会 9月18日（日） 9:30～12:00

司会：鈴木 悠太（東京工業大学）
藤森 宏明（北海道教育大学）

9：30～10：00

義務教育教員養成を担う帝大系教育学部での教育学教育に関する考察
－新制東北大学教育科学科を事例として－

○久恒 拓也（新見公立大学）

10：00～10：30

養成段階での学びと入職後の教師の学びの接続とその課題

○香川 奈緒美（島根大学）

10：30～11：00

大学での学習・活動履歴と教師の力量形成

－地方国立大学教員養成系学部卒業生調査より－

○小原 一馬（宇都宮大学）

丸山 剛（宇都宮大学）

11：00～11：30

より深い省察に資する模擬授業協議会における大学教員の役割

：深い見方を促すための発問に対する学生の発言，記述に着目して

○梶井 大輔（大谷大学）

11：30～12：00

全体討議

第 14 分科会 9 月 18 日（日） 9:30～12:00

司会：池田 考司（北海道教育大学）
前田 一男（立教大学名誉教授）

9：30～10：00

「大学における教員養成」の「未来のカリキュラム」とは何だったのか？
：1950 年代の東京学芸大学における論争に注目して
○金子 真理子（東京学芸大学）

10：00～10：30

家庭科教員養成における体験実習の効果
－指導内容への意識の変化－
○室 雅子（椋山女学園大学）

10：30～11：00

教職課程学生と現場教員との実験的な接続機会の創出
○松田 剛史（藤女子大学）

11：00～11：30

教員養成大学生の教育相談における曖昧さへの態度と教師効力感（2）
進路選択に対する自己効力感との関連
○西村 佐彩子（京都教育大学）

11：30～12：00

全体討議

第 15 分科会 9 月 18 日（日） 9:30～11:50
--

司会：牛渡 淳（仙台白百合大学）
吉岡 真佐樹（京都府立大学）

9：30～10：00

南アフリカ指導主事を対象とした本邦研修プログラムの評価

○小野 由美子（早稲田大学）

10：00～10：30

アメリカの教職インダクションにおけるメンタリングの効果的な要件に関する一
考察－特に新任校長に焦点をあてて

○八尾坂 修（玉川大学）

10：30～11：20

教職大学院における理論と実践の融合への挑戦

－「なにわのグローバル教師に求められる資質・能力」の実践的開発を通して－

○田中 満公子（大阪教育大学）

○荒木 靖子（大阪府立都島工業高等学校）

○北谷 晃久（大阪市立喜連西小学校）

○古賀 真也（池田市立五月丘小学校）

○阪下 司（大阪府立富田林高等学校）

○里見 拓也（大阪市立新箕中学校）

○城台 祐樹（大阪府立豊中高等学校）

11：20～11：50

全体討議

第 16 分科会 9 月 18 日（日） 9:30～11:50

司会：樋口 直宏（筑波大学）
渡辺 貴裕（東京学芸大学）

9：30～10：00

生徒指導に関する教員の意識・取り組みが変化する要因とその検討
－生徒指導主事への聞き取りを通じて－

○宇都宮 元（千葉県立船橋古和釜高等学校）

10：00～10：30

生徒の授業評価から見る教員の資質能力
－生徒が満足する授業とは－

○山口 隆範（びわこ成蹊スポーツ大学）
原 清治（佛教大学）

10：30～11：20

非正規教員の意識および力量向上に関する実証的研究
－Web 調査データから見える多様性の構造化の検討を通して－

○和井田 節子（共栄大学）
○山田 真紀（椙山女学園大学）
○菊地原 守（名古屋大学大学院）
藤田 英典（都留文科大学）

11：20～11：50

全体討議

第17分科会 9月18日（日） 9:30～11:30

司会：梅澤 収（静岡大学）
田中 昌弥（都留文科大学）

9：30～10：00

対話型模擬授業検討会において「学習者になる」とはどういうことか
：特別支援学級を想定した模擬授業実践とインプロ理論を手がかりに
○園部 友里恵（三重大大学）

10：00～10：30

臨床教育学の研究動向と課題
—学校教育に焦点をおいて—
○臧 俐（東海大学）

10：30～11：00

省察という行為について：省察はなぜ道具化するのか
○百合田 真樹人（教職員支援機構）

11：00～11：30

全体討議

第 18 分科会 9 月 18 日（日） 9:30～12:00

司会：内田 千春（東洋大学）

仲田 康一（法政大学）

9：30～10：00

教師が学び育つための学校づくり

ー同僚との対話的関係の構築を手がかりにー

○大畑 健二（信州大学）

10：00～10：30

中国における「薄弱学校」の実態と課題

ー勤務する教員の認識に基づく分析ー

○毛 月（筑波大学）

10：30～11：00

子ども支援に悩む担任を支える教師のエスノグラフィー

ー教師らはケース会議で何を議論しどう実践に繋がったかー

○小田 郁予（東京大学大学院）

11：00～11：30

教員集団内における心理的安全性が生み出される要因に関する一考察

ー初任教員の視点からー

○和田 真季（大阪公立大学大学院）

11：30～12：00

全体討議

第 19 分科会 9 月 18 日（日） 9:30～11:30
--

司会：高旗 浩志（岡山大学）
矢野 博之（大妻女子大学）

9：30～10：00

教師の資質・能力の再検討

○深見 俊崇（島根大学）

10：00～10：30

教職大学院実務家教員の交流プログラムの展開

－対面集合形式の可能性と課題－

○木原 俊行（大阪教育大学）

野中 陽一（横浜国立大学）

小柳 和喜雄（関西大学）

10：30～11：00

教職大学院の現職院生を対象とした実習科目の取組み

：Instructional Rounds の活用

○宮橋 小百合（和歌山大学）

廣瀬 真琴（鹿児島大学）

11：00～11：30

全体討議

第 20 分科会 9 月 18 日（日） 9:30～11:50

司会：浅野 信彦（文教大学）

金馬 国春（横浜国立大学）

9：30～10：00

教員養成課程との連携を見据えた「総合的な探究の時間」の授業実践研究

－大阪暁光高等学校教育探究コース「教育・人間探究の時間」を中心に－

○和井田 祐司（大阪暁光高等学校）

10：00～10：30

道徳教育の視点を踏まえた看護教育の一考察

－自己内省ノートを活用しての看護学生への関わり－

○中谷 香（佛教大学）

10：30～11：20

特別活動を通じた学校文化の形成に関する検討

－A 高等学校における教師と生徒の関わりを中心に－

○吉川 孝（京都教育大学）

○長谷川 誠（神戸松蔭女子学院大学）

原 清治（佛教大学）

11：20～11：50

全体討議

「令和の日本型教育」における〈個別最適な学び〉と〈協働的な学び〉

—〈能力〉〈評価〉の視点から—

【趣 旨】

本課題研究部会は、社会の変容と教育改革下の学校の在り方を踏まえ、教師教育の課題を検討することを目的としている。今回焦点化するのは、答申「令和の日本型学校教育」と新学習指導要領に示す新しい学びである。

答申と新学習指導要領のいずれにおいても、個人に焦点化された学びがクローズアップされている。そこでは、「一人一人の子どもの能力に沿って、丁寧に対応する」ため、画一的な上意下達の一斉授業からの飛翔となるという期待から、これを肯定的に迎える側面がある一方で、「個人化」を推し進めて産業への「人材」を輩出する機能を強め、学校教育がますます産業界や経済界のために貢献する道具となる危険性を指摘する説もある。

施策の評価がこのように両義的になる理由の一つとして、〈教える・学ぶ〉ことの取り上げ方の問題があるだろう。

教室における授業の〈教える・学ぶ〉行為に注目が集まっているが、現実には、授業は社会的文脈の中に埋め込まれ、学級での〈教える・学〉時間を超えて、その後の「評価」に至るまでのサイクルとして位置づけられている。

このとき「指導と評価の一体化」に見られるように、到達すべき目標から実際の学びが演繹的に想定されるならば、画一的・一律的な形態ではない新たな個別最適な学びが構想されたとしても、「十分な達成ができたかどうか」で、子どもたちは各自評定されることになる。そのような場合には、これまでの教育と何ら変わらず、子どもたちをバラバラに切り離し、他者化し、相互に競争の中に落とし込み「選別する学校」の機能には変化はない。

このように、個人に注目した学びという新たな施策も、学校における〈授業の全体像〉から見ると、多くが抱く子ども中心主義的なイメージから遠くかけ離れたものになりかねない。観点別評価が取り入れられたことにより、態度や意欲まで評価される点では、状況はさらに厳しくなっていくだろう。〈個に応じた学び〉の語感が描くポジティブな印象は、こうした評価やそこで測られ達成基準に埋め込まれた〈能力〉がどのようなもののかを看過しているからに他ならない。

また「個別最適な学び」と対で示される「協働的な学び」について、それが何を示しているのかについては十分には問われていない。単に学習形態の違いとみなして、〈個人学習—グループ学習〉のサイクルを繰り返すととらえるのみの単純な見方は、さすがに教育の専門家の中では支持されないだろう。協働的な学びの具体例を参考にしつつ、授業における活動の実際や〈学ぶ〉ことの新たな側面を、そこから学び取る必要がある。

このとき、そもそも「個人」も「能力」も、他者との関係の中で協働的に培われるのであって、こうした概念には本来的に「協同性」が内包されるという指摘がある。学ぶことは個人に帰するという「常識」で満たされている現状では、この指摘は極めて重要な事項をはらんでいる。が、そうした「個人」のとらえ方や「能力観」について多くは語られていない。「協同的な学び」の重要性を指摘する中で、こうした指摘についても議論を深めていくことは重要である。さらにまた、そうした「協同的な学び」の中では、「評価」はどのようなものとしてあらわれるのか、これもまた検討されるべき課題である。

報告者の桜井氏は、学習の個別化が学校の選抜機能をさらに強化し、個人化を促す危険性を持つことをマクロな観点から多数の論考で指摘している。学級の中＜教える・学ぶ＞行為とその施策の現代的な課題について検討していただく。奈須氏は、山形県をフィールドとして「個別の学び・協働の学び」の実践に長くかかわってきた。その実践へのかかわりの中で、現場ではどのような新たな局面が切り開かれているのか、また、研究の側面ではどのような転換がみられるのか、それについて報告していただく。授業研究者としての浅井氏からは、授業研究の中で個に応じた学び（と協同的な学び）の系譜を示していただき、そこにどのような検討課題があるのかを指摘していただく。

より現実的な、よりマクロな、またより研究的な位置づけから、現代の＜個に応じた学＞＜協働的な学び＞の施策を検討していきたい。

【話題提供者】

桜井 智恵子（関西学院大学）

奈須 正裕（上智大学）

浅井 幸子（東京大学）

【コメンテーター】

油布 佐和子（早稲田大学）

【司会】

鈴木 悠太（東京工業大学）

柏木 智子（立命館大学）

大学における教職課程の「グランドデザイン」を描く

【趣 旨】

課題研究2「大学教育と教師教育」では、大学における教員養成のあり方について学際的・総合的な検討を行い、学術的基盤に基づいて日本独自の教員養成モデルを構築し、政策提言を行うことを目的としている。特に、教員養成の「制度」と「カリキュラム」という二つを研究対象として取り上げ、理論的および実証的アプローチを統合的に推進することを通して、大学における教員養成の理念や実態を明らかにするとともに、そのシステムの再構築に向けて、日本における教員養成の新たな高度化に向けた将来像を「グランドデザイン」として描くことを目指している。

本研究大会では、その時点までの研究プロジェクトの進捗状況と研究成果を報告するとともに、学会内外の識者からのコメントをいただきつつ、参加者と協議を行い、大学における教員養成のあり方について検討を深めていきたい。

なお、課題研究2が母体となって申請した科学研究費基盤研究Bが採択され、2021年度（一年次）の研究プロセス（開催された研究会の詳細など）については下記のHPで公開しているので、参照されたい。

<https://projectresearch2.jsste.jp/>

【報告者】

鹿毛 雅治（慶應義塾大学）
岩田 康之（東京学芸大学）
勝野 正章（東京大学）

【指定討論者】

松下 佳代（京都大学）
高野 和子（明治大学）

諸外国における「教員不足」―議論の足場を探る

【趣 旨】

第10期の課題研究Ⅲ部（国際比較・交流）は、多様な教職ルート（教壇に立つためのルート）に焦点を当てて、国際比較研究を進めています。第31回大会では、アメリカ・ノルウェー・中国・ドイツの多様な教職ルートの実態を議論しました。その中で、各国に共通する背景として教員不足の問題が浮かび上がってきました。わが国でも、2022年1月に教員不足に関する調査結果（文部科学省）が示され、その内容をめぐって様々な議論が展開されています。しかし、一言で「教員不足」と言っても、何をもって「不足」としているのかという点において共通理解が曖昧であるために、論点が錯綜しているようにも見えます。教員不足は、教員定数に対する量的な問題なのでしょうか。そうではなく、普通免許状を有していない教員が数多く配置されているという問題なのでしょうか。こうした教員不足を議論するための足場をある程度固めた上で、教職ルートの多様化を含めた具体的な方策のあり方を検討する必要があると考えます。

そこで本課題研究では、教員不足に対する問題認識が各国・地域によってどのように異なっているのか（もしくは共通しているのか）を明らかにしていきます。そして、国際比較分析を通して、教員不足を議論するための足場を検討していきます。

【司会】

佐藤 仁（福岡大学）

矢野 博之（大妻女子大学）

【登壇者】

国際動向および日本：佐藤 仁（福岡大学）、原北 祥吾（崇城大学）

オーストラリア：伊井 義人（大阪公立大学）

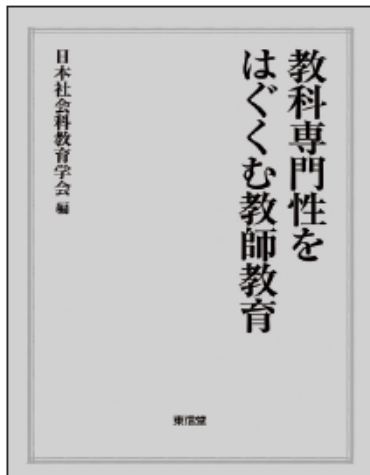
イギリス：植田 みどり（国立教育政策研究所）＊非会員

【指定討論】

辻野 けんま（大阪公立大学）

教科専門性をはぐくむ教師教育

日本社会科教育学会 編

A5・上製・312頁・税込 3520 円（本体 3200 円）
ISBN978-4-7989-1782-2 C3037

**揺れ動く社会に対応した
教員育成を目指して―。**

教科教育研究・実践の全貌を網羅した最前線！

国外・国内の情勢が目まぐるしく変動する今日、特に社会科教員は、常に社会と教育の全体像を俯瞰しながら、その時々情勢に応じた「資質」や「専門性」が求められている。そういった教員を養成するために、教師教育に今必要とされるものは何か？ 4部構成全 18 章の充実の章立てから成る、「よりよい教育」を志向した不断の研究・議論・実践の結晶の一冊！

主要目次

まえがき

第1部 社会科の専門性と教師教育

- 1 章 教科の専門性と社会科教員教育
- 2 章 小学校教育における社会科と教師の在り方
- 3 章 中・高等学校社会科系教科の教員養成における「教科専門科目」の在り方

第2部 学生・教師の実態からみた教師教育

- 1 章 学習者の視点に立った省察を行える教師を育てる
- 2 章 学生の実態から社会科教員養成を考える
- 3 章 組織的に行う教師の育成
- 4 章 教科の変容と社会科教員教育

第3部 採用側からみた教師教育

- 第1章 採用側からみた教師教育と社会科の役割

第2部 採用側からみた社会科の教師教育

- 第3章 採用側からみた社会科の教師教育
- 第4章 政策決定過程からみた社会科の教師教育
- 第4部 教職大学院化と教師教育**
- 第1章 教師教育と教科教育
- 第2章 社会科内容学の現状と課題
- 第3章 教科内容構成学の理論的根拠を問う
- 第4章 教職大学院における社会科教員教育
- 第5章 現職院生は理論と実践にどう向き合うか
- 第6章 教職大学院における教科教育カリキュラムの検討
- 第7章 私立大学教職課程から見た社会科教員養成

あとがき

事項索引／人名索引／執筆者一覧

国際的にみた外国語教員の養成

大谷泰照 編集代表

A5・上製・374頁・税込 3960 円（本体 3600 円）
ISBN978-4-7989-1299-8 C3037

新時代の日本の外国語教員養成に向けて

特に今世紀に入り、教員養成の一層の高度化が広く国際的に問われているその時代に、日本ではこれに真っ向から逆行して、専門職であるはずの教職の組織的な非専門化が国主導で大手を振って進行している。本書は、このようなわが国の教員養成、とりわけ外国語教員養成のあり方を、新しい時代の諸外国における教育的動向を考えながら、文字通りグローバルで多角的な視点から、改めて厳しく問い直す。

主要目次

この国の教育的熱意

■外国語教師とは何か

■各国・地域の外国語教員養成体制

- 1 アジアの非印欧語圏で印欧語の植民地経験がない国・地域

- 2 アジアの非印欧語圏で印欧語の植民地経験がある国・地域

- 3 ヨーロッパの印欧語圏で複数言語が共存する国

- 4 ヨーロッパの印欧語圏で英語が事実上第2言語である国

東信堂
直接注文
お問い合わせ

37

楽天
ブックス

honto



東信堂

〒113-0023 東京都文京区向丘 1-20-6
HP <http://www.toshindo-pub.com>
☎ 03-3818-5521 ☎ 03-3818-5514
✉ toshindo_onlineorder1985@gmail.com
✉ tk203444@fsinet.or.jp (代表)

*博論書籍化、教科書等の出版相談は代表メールまで！

博 報 賞

「博報賞」は、児童教育現場の活性化と支援を目的として、
財団創立とともにつくられました。
「ことばの力を育むことで、子どもたちの成長に寄与したい」そんな想いを核として、
日々教育現場で尽力されている学校・団体・教育実践者の
「波及効果が期待できる草の根的な活動と貢献」を顕彰しています。
また、その成果の共有、地道な活動の継続と拡大の支援も行なっています。

活 動 領 域

- 国語教育 ○日本語教育 ○特別支援教育
- 日本文化・ふるさと共創教育 ○国際文化・多文化共生教育
- 独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動

賞 の 内 容

正 賞：賞状 副 賞：博報賞100万円
功労賞 50万円
奨励賞 30万円

年間スケジュール

4～6月末 応募受付
7～9月 審査会
10月 受賞者発表
11月 贈呈式

審 査 委 員

※五十音順(審査委員長除く)/敬称略

森山 卓郎 (審査委員長/早稲田大学 教授)
伊藤 亜希子(福岡大学 准教授)
岩瀧 大樹 (立教大学 教授)
東風 安生 (横浜商科大学 教授)
佐久間 亜紀(慶應義塾大学 教授)

滝川 国芳 (京都女子大学 教授)
田村 学 (國學院大學 教授)
成田 信子 (國學院大學 副学長・教授)
山元 隆春 (広島大学 教授)
渡部 匡隆 (横浜国立大学 教授)

(2022年度)

※応募には、推薦資格を有する第三者の推薦が必須です。詳細は、3月下旬公開の「応募要項」をご覧ください。

<https://www.hakuhodofoundation.or.jp/>

【お問合せ先】公益財団法人 博報堂教育財団「博報賞」担当

博報賞

検索



〒100-0011

東京都千代田区内幸町2丁目2-3 日比谷国際ビル14階 TEL:03-6206-6266(平日9:30~17:30) Mail:hakuhoushou@hakuhodo.co.jp

主催 公益財団法人 博報堂教育財団 後援 文部科学省

戦後初期コア・カリキュラム研究資料集 第1回配本 東日本編 全3巻

[編集・解説] 金馬国晴(横浜国立大学教授)／安井一郎(獨協大学教授)

[体裁] B5判・上製・約1,900頁／ ISBN978-4-908823-38-1 C3337 [定価] 本体90,000円+税

[巻構成] 第1巻: 解説・資料一覧 北海道・東北・北関東 第2巻: 東京・南関東 第3巻: 北陸・甲信越・東海

戦後初期、1948年～1950年代に各地の教師が自主的に作成したカリキュラム冊子を厳選して編集復刻!!

戦後初期コア・カリキュラム研究資料集 第2回配本 西日本編 全3巻

[編集・解説] 金馬国晴(横浜国立大学教授)／安井一郎(獨協大学教授)

[体裁] B5判・上製・約1,900頁／ ISBN978-4-908823-60-2 C3337 [定価] 本体90,000円+税

[巻構成] 第4巻: 解説・資料一覧 近畿1(滋賀・京都・大阪・奈良・和歌山) 第5巻: 近畿2(兵庫) 第6巻: 中国・四国・九州

今や1冊しか残らない冊子の抜粋で、教職課程のコアカリキュラムとは違う各校の多彩な模索と表現を明らかに

戦後初期コア・カリキュラム研究資料集 第3回配本 附属校編 全3巻

[編集・解説] 金馬国晴(横浜国立大学教授)／安井一郎(獨協大学教授)／溝邊和成(兵庫教育大学教授)

[体裁] B5判・上製・約2,000頁／ ISBN978-4-908823-68-8 C3337 [定価] 本体90,000円+税

[巻構成] 第7巻: 解説・資料一覧 東日本(北海道・東北・関東・中部) 第8巻: 西日本1(近畿1(京都・兵庫)) 第9巻: 西日本2(近畿2・中国)・四国・九州

戦後初期コア・カリキュラム研究資料集 第4回配本 中学校編・附属校編 全4巻

[編集・解説] 金馬国晴(横浜国立大学教授)／安井一郎(獨協大学教授)／溝邊和成(兵庫教育大学教授)

[体裁] B5判・上製・約2,200頁／ ISBN978-4-908823-91-6 C3337 [定価] 本体120,000円+税

[巻構成] 第10巻: 附属校編補遺、境界編 第11巻: 中学校編 東日本編1 第12巻: 中学校編 東日本編2 第13巻: 中学校編 西日本編
カリキュラム・マネジメントおよび生徒会・行事・学活などの特別活動、部活動、職業教育、キャリア教育などにも示唆あり。

■第5回配本〈完結〉全4巻 団体編他、2022年9月下旬発売予定。[定価] 120,000円+税 ISBN978-4-910672-10-6 C3337

クロスカルチャー出版

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町2-7-6
TEL: 03-5577-6707 FAX: 03-5577-6708 <http://crosscul.com>

■呈内容見本

「#教師のバトン」でも問題に
なっている教師の労働環境。
元教員の14人が赤裸々に体験を語る

教師をやめる

14人の語りから見える学校のリアル



前屋 毅 著

- 四六判・224ページ
- 定価1,980円(税込)
- ISBN978-4-7619-2720-2

——主な内容——

1. 悪いのは私だけ?
2. 「やったもん負け」の
学校文化に疲れ果て……
3. 非正規教員は格下なのでしょうか
4. 自分の子どものクラスの担任に
嫌な思いはさせられない
5. 学校は外からみると
単純なものではない

など(全14)

公立小中高、特別支援学校全体の5.8%が教員不足、
教員採用試験の倍率が2.6倍と過去最低を更新続ける中、
大学は、学校現場は今、
教師をどう育てればいいのか——。

教師の育て方

大学の教師教育×学校の教師教育



武田 信子・多賀 一郎 著

- 四六判・136ページ
- 定価1,980円(税込)
- ISBN978-4-7619-2855-1

——主な内容——

- 第1章 教師教育は「誰が」担うのか
- 第2章 教師教育は「何を」すべきなのか
- 第3章 これからの教師モデルとは
- 第4章 教師教育者の専門性開発
- 第5章 教員養成が危機的な状況にある
- 終章 子どもたちの変化から
これからの教師教育を考える

詳しくは、こちらをクリックして「学事出版」ホームページをご覧ください。

学事出版

千代田区神田神保町1-2-5 和栗ハトヤビル3F TEL03-3518-9016 FAX03-3518-514

ご注文は、書店または弊社 HP まで！お電話からでも OK！

探究 - 理論と演習

著：田口 哲男（共愛学園前橋国際大学）

読む力／汎用的な能力／教育目標／探究（問題解決型学習、課題解決型学習、PBL）／問を見だし、課題を設定する／情報収集／整理・分析／まとめ・表現／探究 Q&A

ISBN：9784863592476 A5判 定価（¥2,000+ 税）



探究プロジェクトの最前線 - 国際バカロレアの理論と実践

編著：山内 紀幸（神戸女子大学）

一条校で日本初の国際バカロレア(PYP)認定校になった、山梨学院幼稚園・小学校での「探究型プロジェクト」を紹介。

ISBN：9784863592520 B5判 定価（¥2,200+ 税）



改訂版 教職用語辞典

編集代表：橋本 美保（東京学芸大学）

好評を頂いた『教職用語辞典』の改訂版！全項目数は1370項目。新しい『学習指導要領』に対応した、最新の教職用語辞典。

ISBN：9784863591851 四六判 定価（¥2,600+ 税）



新時代の教育課程論

編著：山内 紀幸（神戸女子大学）

本田 伊克（宮城教育大学）

教育課程の3側面（計画論・授業論・評価論）を踏まえ『カリキュラムマネジメント』を加えた。また、幼小中高それぞれの学校種を意識した構成となっている。

ISBN：9784863592513 A5判 定価（¥2,200+ 税）



失われた<心の眼> - 人間の自然とベルクソン

著：田中 智志（東京大学）

ヨーロッパの旧キリスト教思想観に立ちかえることで、現代の人間に対する概念を豊かにし、新たな選択を思考する可能性を探究する。

ISBN：9784863592469 A5判 定価（¥2,800+ 税）



海洋リテラシーの理念 - 日本からの発信

編著：東京大学海洋教育センター・田中智志・田口康大・梶川 萌

海洋リテラシーの歴史や、地域版の海洋リテラシー構築の取り組みなどをカラー写真や図表を用いて紹介しながら、海洋リテラシーに関する議論の創出を試みます。

ISBN：9784863592568 B5判 定価（¥2,700+ 税）



〒160-0014 東京都新宿区内藤町1-6 TEL：03-5312-8890 FAX：03-5312-8895

一藝社では、自費出版・テキスト製作等、書籍執筆のご相談も承っております。是非、お問い合わせ下さい。

検索

一藝社



http://www.ichigeisha.co.jp/

スクールティーチャー

一教職の社会学的考察 定価4,420円

●ダン・ローティ 著 / 佐藤 学 監訳

織田泰幸・黒田友紀・佐藤仁・榎景子・西野倫世 訳
全米、世界での教師教育改革の起爆剤となった名著中の名著。教職の複雑な現実を卓越した洞察とデータ分析で見事に描き出した。



教育裁判事例集

一裁判が投げかける
学校経営・教育行政へのメッセージ

●佐々木幸寿 著 定価2,750円

学校を取り巻くさまざまな問題はどのように司法に判断されてきたのか、学校運営・教育行政にまつわる裁判事例を読み解く。



教師教育研究ハンドブック <電子版>

●日本教師教育学会 編 定価6,600円

日本教師教育学会の25年間の研究の蓄積と最新の知見をベースに教師教育の研究と実践と政策に関する概念・用語を包括的に提示。

※ご購入方法等、詳しくは右記QRコードもしくは弊社WEBサイト(下記アドレス)
(https://www.gakubunsha.com/)から「教師教育研究ハンドブック」を検索



教育実習の日本的構造

一東アジア諸地域との比較から 定価3,520円

●岩田康之 編 金繁雅・早坂めぐみ・大和真希子・山口晶子 著

実習生・教員の抱える課題を東アジア諸地域との比較を基に構造的に解明。



教育を再考する グローバル時代の参照軸

●ユネスコ 著 / 日本教師教育学会第10期国際交流部
・百合田真樹人・矢野博之 編訳+解説

UNESCO, Rethinking Education, 待望の翻訳書(解説付き) ついに刊行!!

画一化する授業からの自律

一スタンダード化・ICT化を超えて

●子安 潤 著 定価2,420円

教育の画一化が、スタンダード化、そしてコロナ禍による急速な学校のICT化の下で拡大する事態に警鐘を鳴らす。



「大学における教員養成」の日本的構造

一「教育学部」をめぐる布置関係の展開

●岩田康之 著 定価3,410円

教員養成に関わる諸アクターの力関係＝「布置関係」に着目し主に歴史的な視角と国際比較的な視角の双方から分析。



J.ロックランに学ぶ教師教育とセルフスタディ

一教師を教育する人のために

●ジョン ロックラン 監修/原著 定価3,850円

武田信子 監修/解説 小田郁子 編集代表 齋藤真宏・佐々木弘記 編
教師教育をリードしてきたジョン・ロックランの主要著作を要約解説。日本の教師教育者の専門性開発に向けて。

学校ガバナンス改革

と危機に立つ「教職の専門性」

●浜田博文 編著 定価3,850円

教職の専門性が置かれている危機的状況の内実を解明。



発達障害における教師の専門性

●角南なおみ 著 定価4,290円

発達障害傾向のある子どもに対する教師の関わりの特徴を明らかに。



〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-6-1
http://www.gakubunsha.com

学文社

Tel 03-3715-1501(代) Fax 03-3715-2012
E-mail: eigyo@gakubunsha.com

近現代日本教員史研究 船寄俊雄・近現代日本教員史研究会編著 4950円	子どもの権利をまもるスクールロイヤー 松原信継・間宮静香・伊藤健治編著 2750円
大学生のための中等社会科・地理歴史科・公民科概論 田部俊充・田尻信壹・小松伸之編著 2200円	評伝 成瀬仁蔵 一女子高等教育から「社会改良」へー 片桐芳雄著（発行：日本女子大学 発売：風間書房） 4950円
中等社会系教科教育研究 中平一義・茨木智志・志村喬編著 1980円	アメリカ教育長職の役割と職能開発 八尾坂修編著 3300円
レリバンスの視点からの歴史教育改革論 二井正浩編著 2750円	世界史教育内容編成論研究 祐岡 武志著 7150円
地理歴史授業の国際協働開発と教師への普及 伊藤直之編著 4400円	概念カテゴリー化学習の理論と実践 新谷 和幸著 8250円
言語を基盤とした教科等横断的指導に関する研究 山田 丈美著 7700円	日本数学教育史研究 上巻 上垣 渉著 22000円
算数・数学の問題解決型授業における精緻化を促進する指導法 小池 嘉志著 7150円	現代キャリア教育システムの日仏比較研究 京免 徹雄著 8250円
発問フレームワークに依拠した理科授業の開発 山岡 武邦著 8250円	「書く」ための文法指導に関する研究 河野亜希子著 7150円
石森延男研究序説 宇賀神 一著 7700円	デュイのオキユベーション概念に基づく芸術的構成活動 小島 律子著 8250円

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34
 TEL 03-3291-5729 FAX 03-3291-5757

風 間 書 房

(URL) <https://www.kazamashobo.co.jp>
 メールアドレス pub@kazamashobo.co.jp (価格税込)

一斉休校 そのとき教育委員会・学校はどう動いたか？ 一斉休校・教育委員会対応検証プロジェクト 企画 末富芳 編著 ◎2530円	社会情動的スキルの国際比較 教科の学びを超える力〈第1回OECD社会情動的スキル調査(SSES)報告書〉 経済協力開発機構(OECD) 編著 矢倉美登里、松尾恵子 訳 ◎3960円
イギリス発！ベル先生のコロナ500日戦争 これからの学校にできることって何だろう ◎1870円 遠藤野ゆり 編著 セネック アンソリユー、川崎徳子、大塚類、佐藤桃子 著	感情的ウェルビーイング 21世紀デジタルエイジの子どもたちのために トレーシー・バーンズ、フランチェスカ・ゴットシャルク 編著 経済協力開発機構(OECD) 編 西村美由起 訳 ◎3850円
対話からはじめる学級づくり 意欲をひきだし、道徳性をかくむ 若菜秀彦 著 ◎2200円	OECD教育DX白書 スマート教育テクノロジーが拓く学びの未来 〈OECDデジタル教育アウトルック2021年版〉 経済協力開発機構(OECD) 編著 濱田久美子 訳 ◎7920円
SDGs時代の学びづくり 地域から世界とつながる開発教育 ◎2200円 かながわ開発教育センター 企画 岩本泰、小野行雄、風巻浩、山西優二 編著	OECDスターティングストロング白書 乳幼児期の教育とケア(ECEC)政策形成の原点 経済協力開発機構(OECD) 編著 一見真理子、星三和子 訳 ◎5940円
ヒップホップ・ラップの授業づくり 「わたし」と「社会」を表現し伝えるために ◎2200円 磯田三津子 著 晋平太 協力	高等教育マイクロクレデンシャル 履修証明の新たな次元 ◎3960円 経済協力開発機構(OECD)、加藤静香 編著 米澤彰純 解説 濱田久美子 訳
社会の周縁を生きる子どもたち 家族規範が生み出す生きづらさに関する研究 志田未来 著 ◎5940円	諸外国の教育動向 2021年度版 文部科学省 編著 ◎3960円
低所得層家族の生活と教育戦略 収縮する日本型大衆社会の周縁に生きる 〈生活困難層の教育社会学：大規模公営団地継続調査 第1巻〉 山田哲也 監修 松田洋介、小澤浩明 編著 ◎3960円	図表でみる教育 OECDインディケータ(2021年版) 経済協力開発機構(OECD) 編著 ◎9460円
国際移動の教育言語人類学 トランスナショナルな在米「日本人」高校生のアイデンティティ 小林聡子 著 ◎3960円	異文化間教育事典 異文化間教育学会 編著 ◎4180円
学士課程教育のグローバル・スタディーズ 国際的視野への転換を展望する 米澤彰純、嶋内佐絵、吉田文 編著 ◎4950円	現代国際理解教育事典〔改訂新版〕 日本国際理解教育学会 編著 ◎5170円

明石書店 〒101-0021 東京都千代田区外神田6-9-5
 TEL 03-5818-1171 FAX 03-5818-1174
 *図書目録送呈 *価格税込 <https://www.akashi.co.jp/>

この広告をご覧のお客様限定！ 広告内の書籍や関連書の購入を
 ご希望の方は、右のQRコードから販売ページにてお申込みいただけますと、
 期間限定で**送料無料**にて承ります。ぜひご活用ください！(公費対応可)





秋田大学近くの千秋公園から望む春の太平山

日本教師教育学会第 32 回研究大会

プログラム

[発行者] 日本教師教育学会第 32 回研究大会実行委員会

委員長 佐藤 修司（秋田大学）

副委員長 鎌田 信（秋田大学）

事務局長 田仲 誠祐（秋田大学）

事務局次長 加納 隆徳（秋田大学）

実行委員（五十音順）

近江谷 正幸（秋田大学）、栗林 守（秋田大学）、小池 孝範（駒澤大学）、櫻庭 直美（秋田大学）、白幡 真紀（仙台大学）、鈴木 翔（秋田大学）、高橋 茉由（秋田大学）、外池 智（秋田大学）、長瀬 達也（秋田大学）、成田 雅樹（秋田大学）、野村 駿（秋田大学）、細川 和仁（秋田大学）、原 義彦（東北学院大学）

[発行日] 2022 年 8 月 1 日

[連絡先 大会実行委員会]

〒010-8502 秋田県秋田市 手形学園町 1-1 秋田大学 教育文化学部

日本教師教育学会第 32 回大会実行委員会事務局

E-mail jsste32@gmail.com

[連絡先 学会事務局]

〒344-0061 埼玉県春日部市粕壁 3-10-1-1705

日本教師教育学会事務局

Tel 070-6441-0943

E-mail office@jsste.jp